

保幼小接続モデルカリキュラムについて

1 カリキュラムの特徴について

- (1) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続についての県としての考え方を提示し、各校園の子どもたちの実態・環境に応じたカリキュラム作成の参考とできるようなものとする。
カリキュラム作成に重点を置くのではなく、本カリキュラムを参考として、子どもたちの実態や地域の実情を話し合い、共通認識をもって指導にあたることに意義をもたせる。
- (2) 保幼小の教職員が使いやすいように、幼児教育から小学校教育の接続期に大切にしたいことを、キーワードや実際の姿などの入った一覧表に整理し、これを実質の保幼小接続モデルカリキュラムとする。
- (3) 次期幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領等の趣旨（幼児教育で継続する5領域と幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を整理した10の項目）をふまえ、接続期に育てたい力として整理する。

2 保幼小接続モデルカリキュラムの項目について

1 はじめに

カリキュラム作成の経緯について

2 まなびをつなぎ ゆめを咲かせる(案)について

カリキュラムの考え方について

3 接続期とは

接続期についての説明

4 幼児教育と小学校教育の接続

幼児教育と小学校教育の違いについて

5 接続期に育てたい力

接続期に育てたい力について

6 「アプローチカリキュラム」について

幼稚園、保育所等で作成されるアプローチカリキュラムの作成について

7 「スタートカリキュラム」について

小学校で作成されるスタートカリキュラムの作成について

8 カリキュラムの活用を進めるために

家庭や地域との連携・協力、保幼小連携・交流のあり方について、特別な支援を必要とする子どもについての留意点

<参考資料>

就学前の子ども向け生活習慣チェックシート

生活習慣・読書習慣チェックシート（小・中学校版）

3 検討会議委員からの主な意見

- ・保幼小接続モデルカリキュラム（一覧表）は、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムが共有されており、現場で使いやすいのでよい。
幼稚園等と、小学校がお互いの情報を共有し、共通理解を図ることこそが大切である。
- ・先進的に進めている市町もあることから、配慮が必要である。
- ・就学前教育が小学校教育の前倒しとならないようにする必要がある。

保幼小接続モデルカリキュラム検討会議 名簿

名 前	所 属 ・ 職 名
山野 栄子	学校法人大橋学園 ユマニテク短期大学設置準備室
曾我 基子	県国公立幼稚園・こども園長会 会長 (津市立桃園幼稚園長)
大井 弓子	県保育士協会 会長 (亀山市立第一愛護園長)
内田 洋子	一般社団法人三重県私立幼稚園・認定こども園協会 理事長 (学校法人名古屋文化学園 津幼稚園長)
中森 早苗	名張市教育委員会事務局 学校教育室 室長
石川 禎紀	三重県PTA連合会 副会長
高岡 純子	ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室 室長